

教科(科目)	水産(漁業)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年(海洋技術コース)
使用教科書	文部科学省著作 海文堂出版株式会社発行 『漁業』				
副教材等	水産白書、漁業技術検定解説書				

1 学習目標

漁業に関する知識と技術を習得させ、資源管理と漁業経営について理解を深めさせるとともに、漁業における生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①漁業の役割の重要性と水産生物の生息場所である環境について理解させる。
- ②国際的な資源管理や地球環境保全、漁業情報の収集と活用、漁業技術、水産食品管理、漁業経営などに関する知識と技術を習得させる。
- ③漁業技術の向上及び漁業経営改善などによる 生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	○漁業と水産生物	○漁業の意義と沿革	○国民生活や経済に果たす漁業の役割や意義について理解する。	16	○授業への取組 ○提出物の内容および期限順守 ○定期考査 ○確認テスト ○自己評価
5		○海洋環境と生物生産	○海の生物の生活環境の保全や海の生産力を有効に活用する基礎的な知識と技術を習得する。		
6	(1学期中間考査)	○漁場と漁場調査	○漁場と漁場調査について基礎的な知識と技術を習得する。		
6		○海の環境保全	○海洋環境の保全に必要な水質や汚染などの基礎的な知識と技術を習得する。	16	
7	○水産資源と漁業管理 (1学期期末考査)	○水産資源 ○漁業管理	○漁業管理が水産資源や漁業経営に与える影響などの基本的な知識と技術を習得する。		
7	○漁業実習	○沿岸漁業体験実習	○沿岸漁業の操業体験を通じて、漁業の実態把握と資源管理型漁業の必要性について理解を深める。		
9	(30日乗船実習)			22	
10	○漁業の技術	○漁具と漁法	○水産生物の生態的特性と漁法、漁船と漁具、漁労技術など漁具と漁法に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
		○主な漁業と資源増殖	○漁業実習（実習船）や地		

4 課題・提出物等

○各單元ごとに課題等の提出を指示することがあります。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○漁業に関する課題に関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むことができる。 ○漁具の構成や製作方法、利用方法及び漁業機械類について興味を持って調べ、漁具製作や漁業実習に積極的に取り組む態度を身に付けようとしている。	○海業と海洋環境及び水産生物の関係について自ら調べ、学習することができる。 ○環境問題の原因や背景と人間の生活行動との関連をとらえ、海洋環境に対する自らの責任を自覚し適切に判断することができる。	○漁具の構成を理解して漁具を製作し完成させ、操業することができる。 ○漁業機械類の機能や操作法を理解し、漁業に活用することができる。	○漁業と水産生物について十分な知識を持ち、漁業と海洋環境及び水産生物の関係について理解している。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取組(授業態度、出席状況、発表、学習活動への参加状況など) ○課題等の提出物(内容および期限の順守) ○定期考査 ○確認テスト ○自己評価 <p>などから、総合的に判断します。</p>			

6 担当者からの一言

食料供給産業など国民生活や経済に果たす漁業の重要な役割や意義について理解し、海業と海洋環境及び水産生物に関する知識や技術を身に付け、これからの漁業の課題や展望について考える能力と態度を身に付けるために努力しましょう。

(担当：久保田 和平)